

<金標準、テクニカル要因で 9000 円への調整・・・>



(出所：オアシス)

ISM 非製造業景気指数が 54.5 となり、6 ヶ月ぶりの高水準を示している。また週間新規失業保険申請件数でも事前予想や前週も下回る 21.6 万件となるなど企業の人員削減の動きは後退している。また社債の発行が増加し、レートロックを受けて債券が売られ金利は高止まりを見せている。特に週末にはブラックアウトに入る事から、先週にコリン・ボストン連銀総裁は「次のステップを検討するためにデータを解釈する際に忍耐が必要になる」と発言し、ウィリアム NY 連銀総裁は「金融政策は現在良い位置にある」と述べながら「引き続きデータを精査して金利の方向性を決めるべき」と述べるなど、9 月の FOMC では据え置き観測が強いが、11 月はデータ次第の会合になると見られる。特に金標準先物は、金・為替相場の意味合いが強く、金利高：ドル高の動きには円建て金価格は円安の恩恵を受けて上昇する傾向が強く表れており、日銀の金融政策の変更がなければ 9000 円を維持する状況に思える。ただ今週はテクニカルの悪化を受けた調整安に注意が必要と思われる。

<テクニカル>

金標準先物の日足の MACD や RCI では、MACD は **MACD** が切り下げながら、**シグナル**は切り上げており乖離幅が縮小している。RCI では**短期**が下げながら**長期**の上昇が止まるなど、日足が 9062 円を下回ると調整の動きが強まると思われる。

このレポートはお客様への情報提供を目的としています。情報に関しては正確を期するよう最善を尽くしておりますが、内容の正確性、信憑性に関し保証をするものではありません。利用にあたっては自己責任の下で行って下さい。売買の判断はお客様御自身で行って下さい。

○商品デリバティブ取引は最初に委託者証拠金等の預託が必要で、その額は商品によって異なりますが、最高額は1枚当たり通常取引 3,220,000 円(2023 年 9 月 11 日現在)です。また、委託者証拠金は相場変動や日数の経過により追加預託が必要になることがあり、その額は商品や相場の変動によって異なります。○商品デリバティブ取引は相場の変動によって損失が生ずることがあります。また、実際の取引金額は委託者証拠金の約 10 倍から 70 倍と著しく大きいため、損失額が預託している委託者証拠金の額を上回ることがあります。○商品デリバティブ取引は委託手数料がかかり、その額は商品によって異なりますが、最高額は 1 枚あたり往復 87,120 円(2023 年 9 月 11 日現在)です。手数料額は相場変動により増減する場合があります。

当社(商品先物取引業者)の企業情報は当社本・支店及び日本商品先物取引協会で開示しています。お取引についての御相談は、当社顧客サービス担当(東京)電話 03-5540-8423 (受付時間:平日 8:30~17:30)
証券・金融商品あっせん相談センター <https://www.finmac.or.jp> 日本商品先物取引協会相談センター
<https://www.nisshokyo.or.jp>